

平成29年度

あおもりの中学生・高校生による

大切なあなたへ薦める 青春の一冊



優秀 作品集



青森県教育委員会

目 次

中学生の部

◆最優秀賞◆

『羊と鋼の森』(宮下 奈都/著) 八戸市立白山台中学校 2年 西塚 未瑠 …… 1

◆優 秀 賞◆

- 『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』(坪田 信真/著)
青森市立荒川中学校 3年 三上 彩花 …… 2
- 『かがみの孤城』(辻村 深月/著) 八戸市立白山台中学校 2年 本田 愛奈 …… 2
- 『お母さん、ぼくが生まれてごめんなさい』(向野 幾世/著)
八戸市立白銀中学校 1年 川野輪和心 …… 3
- 『流星ワゴン』(重松 清/著) 五戸町立五戸中学校 1年 頭久保京子 …… 3
- 『ピーティ (Petey)』(ベン・マイケルセン/著)
外ヶ浜町立平館中学校 3年 木村菜々美 …… 4
- 奨励賞・審査員賞一覧 …… 4

高校生の部

◆最優秀賞◆

『五重塔』(幸田 露伴/著) 青森明の星高等学校 2年 田中 惟真 …… 5

◆優 秀 賞◆

- 『アンネの日記』(アンネ・フランク/著)
青森県立青森高等学校 2年 工藤 千夏 …… 6
- 『クライマーズ・ハイ』(横山 秀夫/著)
青森県立青森高等学校 2年 吉町 文子 …… 6
- 『「今、ここ」から考える社会学』(好井 裕明/著)
青森県立青森高等学校 1年 佐藤 陽南 …… 7
- 『名のないシシャ』(山田 悠介/著)
青森県立青森高等学校 1年 仲江川大夢 …… 7
- 『たとえ明日、世界が滅びても今日、僕はリンゴの木を植える』(瀧森 古都/著)
青森県立青森高等学校 1年 工藤さくら …… 8
- 奨励賞・審査員賞一覧 …… 8
- ★著書・著者別ベスト10 …… 9

中学生の部 / 最優秀賞

『羊と鋼の森』（宮下 奈都／著）

八戸市立白山台中学校 2年 西塚 未瑠

この本には主人公がピアノの調律師としても、一人の人間としても、成長をしていく姿が描かれています。「経験や、訓練や、努力や、知恵、機転、根気、そして情熱。才能が足りないなら、そういうもので置き換えよう。」これは、私の心に一番残った一節です。私も主人公と同じように、自分には才能が無いと思ってしまうことがあったからです。例えば、部活の試合で負けてしまったとき。才能がある人はいいなと今までは思い、落ち込んでいました。しかし、この一節を見て、才能以外にも自分の強みになるものはたくさんあるのだというを感じることができました。読んだ後、心があたたかくなる、優しさにあふれた、素敵な一冊です。



文藝春秋

【審査評】

心に残った一節を紹介し、そこから自分の経験につなげていく部分が自然で、全体としてもうまくまとまっている。素直な表現から内面の変化（成長）がよく伝わり、最後の一文にも同じような気持ちを抱える同世代に穏やかに訴えるものがある。

中学生の部 / 優秀賞

『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて 慶應大学に現役合格した話』(坪田 信貴/著)

青森市立荒川中学校 3年 三上 彩花

私も今年、ビリギャルのさやかさんと同じ受験生だ。しかし、成績が伸び悩み、このままでは志望校合格は不可能。将来への不安を胸に抱えて過ごす毎日だ。そんな私の前に現れたさやかさんは、偏差値30以下という絶望的な状況でも、塾では常に学ぶ楽しさを忘れず、自分の可能性を信じ、己と戦っていた。そんなひたむきで明るい彼女の姿から、私は元気をもらった。いくら周りから笑われても、不可能だと分かっている、自分の限界を決めつけずに、何にでも挑戦する。その姿勢は、私たち受験生にとっても、見習うべきものなのかもしれない。あなたもこの夏、さやかさんと「ゼッタイ無理」を克服するための第一歩を踏み出してみたいはいかがだろうか。



KADOKAWA
アスキー・メディアワークス

【審査評】 現在の自分、ビリギャルの紹介、薦めたい理由などが簡潔にテンポよく伝えられている。主人公の描写、最後の一文の書き方とおして、この文章を書いた生徒の人柄までも伝わってくるようである。

『かがみの孤城』(辻村 深月/著)

戸市立白山台中学校 2年 本田 愛奈

孤城とは、何も無いところに立つ、敵に囲まれ、援軍しようのない城のことである。

主人公安西こころは、ある事がきっかけで不登校になってしまった中学1年生の女の子。ある時、部屋の鏡が光りそこに手を入れてみると、こころと同じような境遇の子たち7人が集められた孤城へとつながっていた…。

私は中学校に入ってから小学生よりいっそう人間関係が怖かった。本当は皆から嫌われていたらどうしようと不安になる。この本は人間関係を中心に語られていて、私と年代代でもあるため、とても共感できる。そして、自分は予想していない展開が次々と起こっていく、ファンタジー要素もあるのでついついページをめくってしまう今一番お薦めの本だ。



ポプラ社

【審査評】 続きを読みたいと思わせるあらすじの書き方、作品の特徴に触れ期待をもたせる結びの文がうまい。自分の経験や不安な気持ちを正直に綴っており、共感する同世代に読んでほしいという思いが伝わってくる。

『お母さん、ぼくが生まれてごめんなさい』（向野 幾世／著）

八戸市立白銀中学校 1年 川野輪 和心

「ごめんなさいね おかあさん ぼくが生まれて ごめんなさい…
ぼくさえ 生まれなかったら…ありがとう おかあさん…」本を開いて
すぐの詩に、胸がしめつけられる思いがしました。これは、15歳
で亡くなった、脳性マヒのやっちゃんが書いた詩の一部です。一生懸
命育ててくれた母への感謝の気持ちと母親のやっちゃんへの愛情、精
一杯生きるやっちゃんの全てが、この一冊から伝わってきました。同
時に、五体満足で不自由なく生活している私自身をふり返ると…果た
して、やっちゃんに恥じない生き方ができるのだろうか、考えさせ
られる本でもありました。



扶桑社

「生きている」ということの意味を見つめ直すきっかけになる本です。

【審査評】 冒頭の詩の引用にインパクトがあり、続く紹介文、自分自身を振り返っての感想と、構成がうまい。普通に生活している中学生として、等身大の受け止め方も素直さが感じられる。

『流星ワゴン』（重松 清／著）

五戸町立五戸中学校 1年 頭久保 京子

私達は今、青春真っ只中だ。だからこそ、親がうっとうしい、と感じてしまう。そんな私達に、「親」という存在を考えさせてくれる物語が、この本だ。遠ざかってしまった父子三組が、不思議なワゴンで少しずつ交わっていく、というストーリー。この本に出てくるそれぞれの三人の息子が私は大好きだ。なぜなら、心にある気持ちが、ぴったりと重なってしまうから。特に自分の思いを伝えられずにしていた所は、正に私の事だと思った。自分自身どう言えば正解かわからない事は何度もあったので、とても共感し、そしてそれをわかってくれる親を温かく感じた。

親の苦勞にも目を向け、心の中でそっと感謝する。そんな気持ちになれる本だ。



講談社文庫

【審査評】 登場人物と自分の心の状態を重ね合わせながら、思春期の親に対する複雑な思いと感謝の気持ちに触れている。書き出しと結びの対比するような書き方がうまく、読後の変容を感じさせる。

『ピーティ (Petey)』 (ベン・マイケルセン／著)

外ヶ浜町立平館中学校 3年 木村 菜々美

この物語は、障がいのため体がねじれてまるで鳥のように見えるピーティの一生が書かれたものです。外見のせいで差別され、避けられてしまうピーティと友達の友情が芽生えていく話です。私は「障がいとは何か」について深く考えさせられました。障がいがある人は差別の対象になってしまう。そんな事実には悲しくてたまりませんでした。それでも堂々と生きるピーティの姿にとても心を打たれ「がんばれ」と声を出して応援したくなるほどでした。私の父は今、福祉施設で働いています。そこで父が利用者さんと正面から向き合っている姿がとても格好良いと思いました。すごく父を尊敬します。最後に、壁は私達自身が作っているのだと思います。



鈴木出版

【審査評】 感銘を受けるとともに、社会の問題を深く広く考えるきっかけとなった作品との出会いを中学生らしい目線で紹介している。お父さんについてこのような素敵な文章を書くことにも内面の成長が感じられる。

中学生の部 / 奨励賞一覧

- | | | | |
|-----------------------------------|------------|----|-------|
| ◇『君の臍臓をたべたい』(住野 よる／著) | 青森市立浪打中学校 | 1年 | 成田 奈月 |
| ◇『呼吸器の子』(松永 正訓／著) | 青森市立浪打中学校 | 2年 | 船越優花奈 |
| ◇『声をくれた君に』(美空 月星／著) | 青森市立浪打中学校 | 2年 | 奈良 真璃 |
| ◇『きみの友だち』(重松 清／著) | 五戸町立倉石中学校 | 2年 | 今川 留那 |
| ◇『君の臍臓をたべたい』(住野 よる／著) | 八戸市立白山台中学校 | 2年 | 大下内萌美 |
| ◇『ももへの手紙』(百瀬 しのぶ／著) | 八戸市立白山台中学校 | 2年 | 磯谷 千尋 |
| ◇『最後だとわかっていたなら』(ノーマ・コーネット・マレック／著) | 八戸市立白山台中学校 | 2年 | 湊 麻綾 |
| ◇『カラフル』(森 絵都／著) | 五戸町立五戸中学校 | 3年 | 山村 奈緒 |
| ◇『表参道高校合唱部！涙の数だけ強くなれるよ』(桑畑 絹子／著) | 青森市立古川中学校 | 1年 | 小倉 有貴 |

中学生の部 / 審査員賞一覧

- | | | | |
|------------------------|------------|----|-------|
| ◇『君の臍臓をたべたい』(住野 よる／著) | 平川市立尾上中学校 | 2年 | 石澤 樹佳 |
| ◇『窓ぎわのトットちゃん』(黒柳 徹子／著) | 六ヶ所村立第一中学校 | 3年 | 柏崎 愛里 |

高校生の部 / 最優秀賞

『五重塔』（幸田 露伴／著）

青森明の星高等学校 2年 田中 惟真

私の日本文学との出会いは中学2年生の頃でした。一番最初に読んだのは国木田独歩の作品です。擬古文体で書かれたものもあり、難しい言葉がたくさん出てきて、読むのに苦労しますが、古い作品を読むことの醍醐味は言葉と初めて出会ったときの、宝探しのようなあの「ワクワク」でしょう。そんな気持ちにさせてくれる物語があります。『五重塔』です。難読語が多く、がっしりとしていながらその文体はリズムカール。そして一貫して描かれる大工の『苾』。これほど漢気に溢れ、純粹でまっすぐな人物は見たことがありません。私はこれを読んで『何かに傾ける情熱』という、心に光る宝を見つけました。あなたにも、良いものが見つかれば嬉しいです。



筑摩書房
現代日本文学大系4 幸田露伴集

【審査評】

話題作や映画化された本への関心が高い世代でありながら、明治期の小説への興味が強く感じられる。少ない文字数の中で作品の特徴をよく表現しており、まとまったよい文章である。

高校生の部 / 優秀賞

『アンネの日記』 (アンネ・フランク / 著)

青森県立青森高等学校 2年 工藤 千夏

今の日本に暮らす平和が当たり前な私にとって、アンネの生活は想像し難い程、残酷なものだった。私は、今までで一日だけ震災による避難所生活を経験したことがあり、その一日で極度のストレスを感じて疲労してしまった。それに比べ、アンネは約二年一ヶ月の間、様々な制約がある隠れ家での生活を送っていた。アンネはどのように長い間、隠れ家で生活できていたのか。それは、アンネが希望や夢を信じていたからだと感じた。この本には、アンネが、理不尽なことに向き合い、前向きに生きる姿が描かれている。この本を読むことで、何気なく過ごす毎日から抜け出し明確な目的や意思をもった毎日を送ろうと思う気持ちで満たされるだろう。



文春文庫

【審査評】 自身の体験とより困難な状況にあったアンネを比較することで、困難な中でも前向きなアンネの心の強さを表現している。自分との比較がよくできておりまとまった文章である。

『クライマーズ・ハイ』 (横山 秀夫 / 著)

青森県立青森高等学校 2年 吉町 文子

今年で日航機墜落事故から32年。今もなお、御巢鷹山の尾根に墜落した事故の凄惨な記憶が人々に語り継がれている。あの事故を題材にしたこの小説は、地方新聞の記者が、情熱だけでは生きていけない社会の現実直面し、圧力に抵抗しながらも、記者として、事故の真実を伝える義務があるという信念と使命感を貫く熱い物語である。高校生の私には、自分の信念のために心から何かを強く願い行動するという機会はまだないが、この本は、将来、夢を実現させ医療に関わることができたなら、人命を救うことに真正面から果敢に挑みたいと、改めて思うことができた本である。臨場感溢れる壮絶な物語だが、一読の価値がある。ぜひ読んでみてほしい。



文春文庫 今月の新刊
文春文庫

【審査評】 前半の本の紹介部分では簡潔でテンポのよい文章で、この作品の持つ複数のテーマ性を感じさせる。また、読書を契機に自分の将来への決意が新たになっており、読書の持つ役割をよく伝えた文章となっている。

『「今、ここ」から考える社会学』(好井 裕明／著)

青森県立青森高等学校 1年 佐藤 陽南

「今、ここ」、私たちは社会の中で生きている。そしてそれは、他者との交流、私たちの日常だ。スマートフォン、性、スクールカースト。環境や政治の問題。どれも身近だったりよく耳にしたりするものだ。その存在はあたりまえ。

身近なのに、いや、身近だからなのか、私たちは「日常のあたりまえ」を軽く扱いがちである。私も、LINEでのつながりについて考えたことなんてなかった。これを読んで初めて「このままでいいのか」と考えた。

受験、就職、人生。将来について考える機会が増える今。だからこそ、新しい視点から自分が死ぬまでつきあう「社会」というものを捉え直すのはいかがだろうか。



筑摩書房

【審査評】 冒頭では短い文で本書で取り上げられたテーマを紹介し、中盤では読後の感想を、最後は社会についての考察の必要性を述べる構成は文章力の高さを感じさせる。

『名のないシシャ』(山田 悠介／著)

青森県立青森高等学校 1年 仲江川 大夢

あなたには、たとえこの身を犠牲にしても守りたい、そのような人がいるだろうか？

この作品は「人の死までの時間」がわかり「命を与える」ことができる「シシャ」たちが大切な人との出会い、命を捧げるまでの様子を描いている。この作品に刺激され、僕にとって大切な人とは誰か、と自問しながら読み返す度に一人の友達が頭に浮かんだ。作品中の「シシャ」は心に淀みのない人に惹かれていくのだが、その友達も心優しい人だった。だからこそ、友達との何気ない日常を強く覚えているのだと実感する。

人を信頼し好きになるとは何か。大切な人の存在とは何か。ぜひ、この本を通してあなたの大切な人について考えてみてほしい。



KADOKAWA

【審査評】 優しく語りかけるような文章で、一読して本の内容がわかるようによくまとめられている。また、自らの読後の考察から生まれている他の人にも読んでほしいという理由も明確でよい。

『たとえ明日、世界が滅びても今日、僕はリンゴの木を植える』

(瀧森 古都／著)

青森県立青森高等学校 1年 工藤 さくら

この本は生きることについて深く考えさせられる本です。私はこの本を読んで家族に何度も支えられたことを思い出しました。私が入院したときたった1週間離れて病院ですごしただけで今まで当たり前だったことが当たり前ではなかったんだと気づかされました。「今生きているこの瞬間が人生」過去をふり返ることも大切、しかし過去にとらわれるのではなく、今を大切な仲間とともに精一杯生きていきたいと強く思える本です。あなたは何のために生きていますか。たくさんの人たちに支えられていること知っていますか。この本は生きていく上で大切なことがたくさんかかれ、1つ1つの言葉にとっても感動しました。ぜひ読んでみてください。



SB Creative

【審査評】 単に本のあらすじを紹介するのではなく、読後に抱いた強い気持ちをベースに仲間や家族の大切さに着目している。自らの感想が多くを占めることで本からの感銘の深さをよく伝えた文章である。

高校生の部 / 奨励賞一覧

- ◇ 『置かれた場所で咲きなさい』 (渡辺 和子／著) 青森県立六戸高等学校 3年 藤内紗也香
- ◇ 『「さよなら」が知ってるたくさんのこと』 (唯川 恵／著) 青森県立六戸高等学校 2年 長者久保麻衣
- ◇ 『チア男子!!』 (朝井リョウ／著) 青森県立青森高等学校 2年 太田原笙子
- ◇ 『ひらいて』 (綿矢 りさ／著) 青森県立青森高等学校 2年 山本 沙貴
- ◇ 『君の臍臓をたべたい』 (住野 よる／著) 青森県立青森高等学校 2年 山本 菜月
- ◇ 『最後だとわかっていたら』 (ノーマ・コーネット・マレック／著) 青森県立青森高等学校 2年 富岡明日香
- ◇ 『きみの友だち』 (重松 清／著) 青森県立青森高等学校 1年 三浦 雪絵
- ◇ 『ストロベリーライフ』 (荻原 浩／著) 青森県立青森高等学校 1年 佐々木啓介
- ◇ 『君の臍臓をたべたい』 (住野 よる／著) 青森県立青森高等学校 1年 中沢莉衣奈
- ◇ 『敗者たちの季節』 (あさのあつこ／著) 青森県立五所川原高等学校 1年 外崎 彩乃

高校生の部 / 審査員賞一覧

- ◇ 『リバーズ』 (湊 かなえ／著) 青森県立百石高等学校 1年 横川 綾香
- ◇ 『スープ屋しずくの謎解き朝ごはん』 (友井 羊／著) 青森県立青森高等学校 1年 幸田 野花
- ◇ 『余命10年』 (小坂 流加／著) 青森県立青森工業高等学校 2年 眞山 健太

中学生・高校生が選んだ『大切なあなたへ薦める青春の一冊』

著書・著者別ベスト10

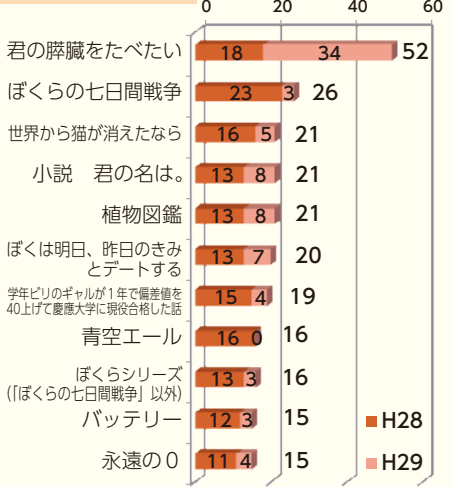
平成28～29年度トータル版

平成28年度及び29年度の応募作品から、取り上げられた著書・著者の多かったものをリストアップしています。あなたの好きな作家は含まれているでしょうか。

中学生の部

応募点数：計 2,223 点
(H28：1,467 点/H29：756 点)

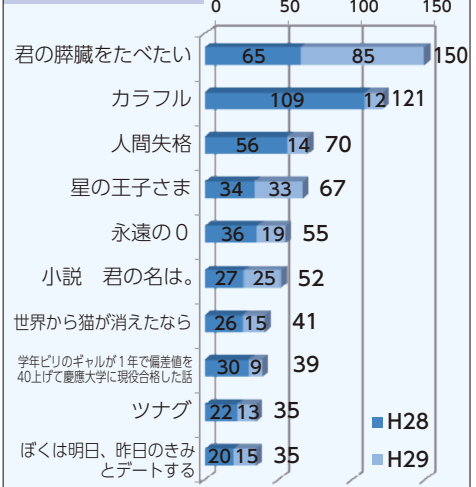
著書別ベスト10



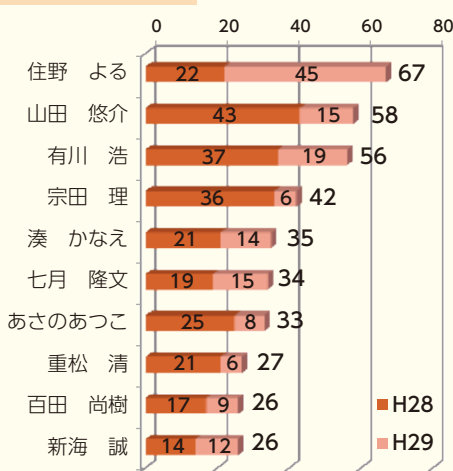
高校生の部

応募点数：計 4,865 点
(H28：2,839 点/H29：2,026 点)

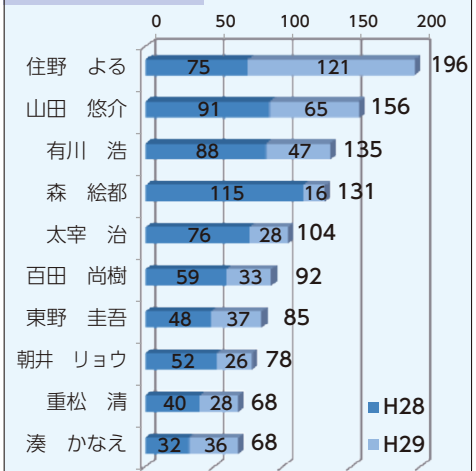
著書別ベスト10



著者別ベスト10



著者別ベスト10



中学生・高校生の皆さんへ

青森県教育委員会では、県内の中学生・高校生の皆さんを対象として、仲間や友だちなどへのオススメの本の紹介文（200～300字程度）を募集し、＜中学生の部＞756点、＜高校生の部＞2,026点の応募をいただきました。どの作品にも、皆さんが選んだ本への強い思いが感じられました。

この作品集では、応募作品の中から、厳正な審査により最優秀賞・優秀賞に選ばれた計12作品を紹介しています。また、奨励賞・審査員賞を含む全優秀作品については、県教育委員会のホームページで読むことができます。

これらの紹介文を読んで、実際に図書館や書店で本を手にとって、読んでみてください。そこから新しい何かが見えてくるかもしれません。そして、ぜひ、ふだんの生活でも、皆さんそれぞれのオススメの本を仲間や友だちどうしで紹介し合ってみてください。

本との出会いが、皆さんがこれからの人生をより深く生きるための力となることを願っています。

青森県 青春の一冊

検索



【審査員】

青森県立板柳高等学校	校 長	米持 聡
青森市立古川中学校	校 長	山田 由子
株式会社成田本店しんまち店	店 長	長谷川達雄
青森県読書団体連絡協議会	会 長	西村恵美子
八戸学院大学短期大学部	学長補佐	茂木 典子
青森県教育庁生涯学習課	課 長	渡部 靖之



【発行】

青森県教育庁生涯学習課企画振興グループ
〒030-8540 青森市新町2-3-1
Tel 017-734-9888
Fax 017-734-8272
発行日 平成30年2月